



**VISION &  
STRATEGY**

第 **86** 期

中間事業報告書

平成14年4月1日～平成14年9月30日

**SENKO**

# 情報技術を駆使し、 最適な流通ソリューション



代表取締役社長 小池 洋

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第86期中間事業報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、年初における輸出の増加に支えられ、一部では底入れの兆しが見られたものの、期後半に入り、世界的な株価の下落とともに米国経済も先行き不透明感を高めており、内需においてもデフレの進行による企業収益の減少が続く中、民間設備投資の減少や、厳しさを増す雇用・所得環境のもと個人消費も低迷を続けており、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

物流業界におきましても、貨物輸送量の減少、一般市況における低価格化の進行がさらに厳しさを増す中、競争激化による取送料金の低下等、厳しい経営環境が続きました。

このような環境のもと、当グループは、中期経営三ヵ年計画の中間年度として、ITを駆使した新ロジスティクスシステム（ベストパートナーシステム）を核にSCM（サプライチェーン・マネジメント）の提供を積極的に進めるとともに、量販店・小売物流や調達物流分野の新規業務開拓、通販カタログの配送業務を第一弾とした新規事業展開（ニュー・バリュー・ロジスティクス）への取り組み、本州・四国地区における潤滑油物流の引き受け等、新規需要の開拓を積極的に推進してまいりました。また、昨年設置した社内改革プロジェクトによる拠点集約、生産性向上、経費削減等の徹底した効率化推進、並びに資金効率向上等による財務体質改善への取り組みなど、収益向上に向けたローコスト化への対応にも取り組んでまいりました。

しかしながら、景気低迷による取扱貨物量の減少や、お客さまからの物流費低減要請、さらには連結対象子会社での石油販売事業の縮小影響もあり、連結営業収益は829億71百万円と対前年同期比4.4%減となりました。



# を実現する

一方、利益面につきましては、連結経常利益は徹底したローコスト化への対応を図りました結果、20億67百万円と対前年同期比1.7%増となりましたが、前年中間期において特別利益に計上しておりました子会社株式売却益の減少があり、連結中間純利益は8億68百万円と対前年同期比27.4%減となりました。

単体決算につきましては、営業収益は、725億89百万円と対前年同期比0.7%減、経常利益は、18億3百万円と対前年同期比1.4%増、中間純利益は7億57百万円と対前年同期比7.1%減となりました。なお、中間配当金につきましては、前期同様1株につき3円75銭とさせていただきます。

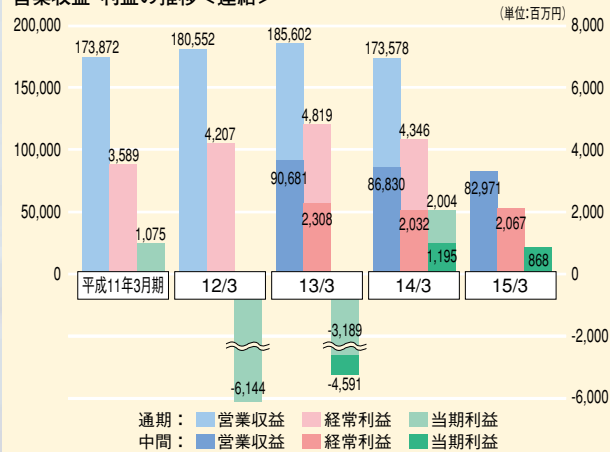
今後の見通しにつきましては、世界的な株安傾向が続く中、欧米の景気も不透明感が高まり、国内経済においても先行き不安から個人消費は低迷し、デフレ傾向にも歯止めがかからないなど、わが国経済は依然厳しい状況が続くことが予想されます。

物流業界におきましても、国内貨物輸送量が低迷する状況の中で企業間競争にも一層拍車がかかり、厳しい状況が続くものと予想されます。また、デフレ化がより進展している環境の中では、お客さまはさらなる高品質で効率的な物流システムの提案や包括的な物流業務委託によるコストダウンを期待されており、物流企業が果たすべき役割はますます重要となっております。

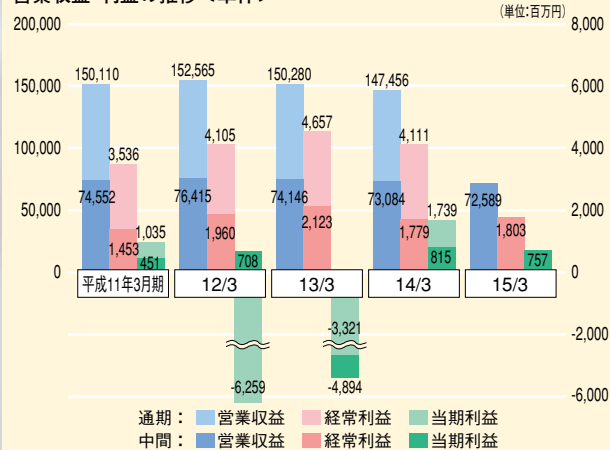
このような状況のもと、当グループといたしましては、これらお客さまのCSニーズにすばやく、的確にお応えするため、ベストパートナーシステムをはじめとする物流システムサービスの一層の拡充を図り、お客さまへのSCM（サプライチェーン・マネジメント）の提供をより一層進めることでさらなる需要の開拓を図ってまいります。また、社内改革プロジェクトによるローコスト化への対応についても引き続き徹底した取り組みを推進し、利益の確保を図っていく所存であります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

営業収益・利益の推移<連結>



営業収益・利益の推移<単体>



## 貨物自動車運送事業

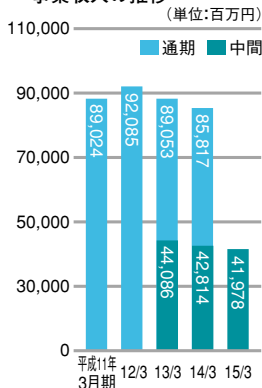
貨物自動車運送事業の当中間期の事業収入は、419億78百万円(対前年同期比2.0%減)で、事業収入構成比は、50.6%となりました。これは、東京地区での既存PDセンターを活用した新規のホームセンター物流、及び京滋地区での物流センター新設による建材・管工機材物流の新規開拓等や、量販店・小売関係貨物並びに住宅建材調達貨物の増加がありましたものの、住宅関連需要の減少による住宅輸送分野での輸送量減少に加え、素材関連貨物の減少もあったことによるものです。

当グループの貨物自動車運送事業は、全国にきめ細かなネットワークを展開しており、貸切輸送から積み合わせ輸送、ルート輸送、共同輸送等、お客さまの商品・物流形態に合わせた輸送・配送サービスを提供しています。輸送貨物は産業用原料から工業製品、建設・住宅資材、農産物、一般消費財、引越し荷物まで、衣・食・住すべてにかかわるものを扱っています。また車両も各種専用車・特殊車を用意するなど、フレキシブルな輸送体制が、メーカーをはじめと多くのお客さまから高く評価されています。



### ●「貨物自動車運送事業」

#### 事業収入の推移



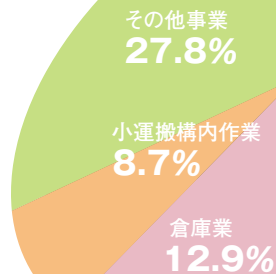
# SENKO

## 倉庫業

倉庫業の当中間期の事業収入は、106億89百万円(対前年同期比1.2%増)で、事業収入構成比は、12.9%となりました。これは、仙台PDセンター・宮崎物流センターでの取扱貨物の拡大、並びに既存物流センターでの量販店・小売関係貨物の新規開拓を積極的に進めたことによるものです。

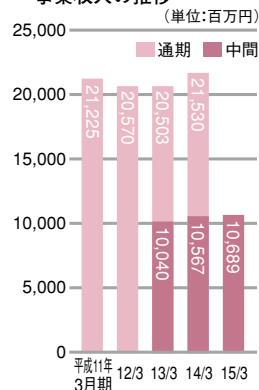
当グループの倉庫拠点は、従来の倉庫のイメージを一新した物流施設で、倉庫の持つ保管機能、配送機能、商品のセット組み、値札つけなどの流通加工や高度情報機能を組み合わせたサービスを提供する複合機能型の物流センターです。

現在、全国主要拠点に173棟を設置し、総保管面積は約73万㎡に及んでおり、これら倉庫拠点を中心に、多様化するお客さまのニーズを先取りしたシステムを使って物流と情報を一体化させ、お客さまの生産と販売を支援する各種物流サービスを提供しています。

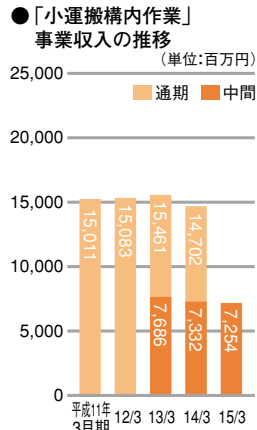


### ●「倉庫業」

#### 事業収入の推移



## 小運搬構内作業



小運搬構内作業の当中間期の事業収入は、72億54百万円(対前年同期比1.1%減)で、事業収入構成比は、8.7%となりました。これは、大阪地区で建材関係のお客さまの工場内作業が増加したものの、既存のお客さまの生産・流通拠点再編等に伴う業務量減少影響に加え、住宅関連分野での業務量の減少があったことによるものです。

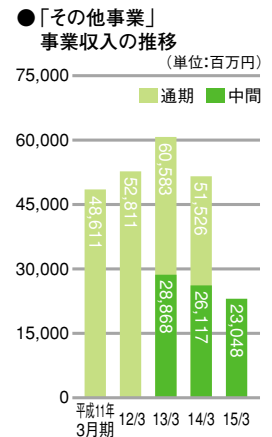
小運搬構内作業とは、お客さまの工場や倉庫などで、原材料のトラック積み卸しから製品の包装・梱包、積み込みといった物流作業から製造過程での各種作業を行うもので、物流のプロとしての確かな仕事で、工場内の物流管理を支えています。



貨物自動車運送事業  
50.6%

# NOW!!

◀◀◀ 部門別事業収入比率  
(平成14年9月期)



## その他事業

その他事業の当中間期の事業収入は、230億48百万円(対前年同期比11.8%減)で、事業収入構成比は、27.8%となりました。これは、量販店・小売物流関連業務、並びに環境への配慮に基づくモーダルシフトの提案等を推進したことによる海上輸送の増加はありましたものの、石油・商事販売事業の縮小等があったことによるものです。

当グループのその他事業には、鉄道利用運送、コンテナ船や専用船による海上運送、顧客専用倉庫やスペース貸し倉庫の不動産賃貸、フレイト・フォワードとして国際間の複合一貫輸送を行う国際物流、石油販売、商事販売、情報処理・ソフトウェア開発、自動車整備などが含まれています。



## センコーのソリューション提案

# 2

### Senko's Solution 2

# 住宅分野

センコーは頼れるビジネスパートナーとして、あらゆる業種のお客さまの物流課題を解決しています。

今回はその中から、確かな実績を誇る住宅分野を紹介。

工場生産住宅において、今や不変のテーマとも言える物流費削減や工期の短縮に挑み、

住宅資材に精通した豊富なノウハウで、住宅物流をトータルにサポートしています。



## 輸配送チャネルの合理化、物流のシステム化で、 物流のトータルコスト削減に貢献し、施工作业もサポート。

当社は鉄骨ユニット住宅、鉄骨パネル住宅、コンクリート住宅、プレハブ住宅の発展とともに歩んできました。それゆえ住宅資材に関する豊富な実績、完成された輸配送システム、施工支援など、当社ならではのさまざまなノウハウがあります。たとえば、主建設地や施工現場の近くにデポを設置して「中継輸送」を行うことで、輸配送チャネルの合理化を実現。また、住宅密集地の狭小地での施工を支援する特殊進入車やリッチタワー・クレーンを開発するなど、多様な施工

支援対応も進めています。一方、住宅関連資材の物流システム化にも積極的に取り組み、住宅メーカー様の工場や施工現場に近接する当社の物流センターを利用した「共同一括物流」を実施。同センターでは、多数の資材メーカー様の製品を保管し、工場の指定や施工進捗に合わせて邸別に必要資材を共同配送しています。また、加工・組立や間配りなどの細やかなサービスも提供し、コスト削減のみならず、施工作业のスピードアップを支援しています。

# Senko's Solution 2

たとえば、こんなソリューションをご提案します。

### 住宅業界の課題

- 低価格住宅の実現
- 良質住宅の実現
- 工期短縮
- 環境面の配慮



### センコーのご提案

#### 住宅生産工場向け共同一括物流

複数の住宅資材メーカー様からの納入資材を「住宅メーカー様の生産工場に近接した拠点」で集約し、ベストなタイミングで邸別に工場へ共同一括輸送します。

#### 施工現場向け共同一括物流

複数の住宅資材メーカー様からの現場直納資材を「施工現場に近接した拠点」で現場配送日の直前に集約し、工事進捗状況に合わせて共同配送します。

## NEW STRATEGY OF SENKO

「ニュー・バリュー・ロジスティクス」の  
第一弾がスタート

当社では新しい事業展開として、「ニュー・バリュー・ロジスティクス (New Value Logistics)」の提供に取り組んでいます。これは、物流システム設計やその運営管理、各種情報処理や情報管理等といった物流ソフト面については、元請けである当社が行い、配送等の物流実務については、その業務に強みをもつ提携・協力会社に委託することで、お客さまに新しいロジスティクスサービスを提供するシステム物流の総称。当社では、この「ニュー・バリュー・ロジスティクス」の第一弾として、7月15日から(株)千趣会様の商品カタログの会員宅への配送業務を新たにスタートさせました。

今回のカタログ配送システムは、カタログの配送デポへの入荷情報、会員宅への配達完了情報、持ち帰り情報、転送(転居先への転送)情報等をリアルタイムで把握するとともに、配達情報はDoPa(携帯端末によるパケット通信)を使って追跡管理するなど、確実にカタログが会員に届くよう、情報面から強力にサポートしているのが特徴です。また、各地域の輸送会社と提携することで、BtoC(企業-消費者)の小包配送ネットワークの強化にもつながります。

シンガポールに現地法人を設立し  
8月より営業を開始

国際事業戦略として、アジアを重要地域として位置付けている当社では、アジア地区での物流拠点強化のため、シンガポールに物流会社を設立し、8月1日から営業を開始しました。新会社「センコー・インターナショナル・ロジスティクス(SIL)」は、資本金86万シンガポール・ドル(約6,000万円)で、当社の中全額出資会社。中国・大連の「大連保税区貝思特国際貿易物流有限公司」、広州の「広州扇興物流有限公司」に次ぐ、アジアで3番目の現地法人となります。

新会社SILでは、旭化成(株)様のシンガポール現地法人である「旭化成プラスチック・シンガポール(APS)」様のPPE樹脂(ポリフェニレンエーテル樹脂)工場での原材料搬入から製造過程での工場内作業、工場倉庫での入出庫、製品出荷、さらにはアジア、アメリカ、欧州等への輸送手配等、APS様工場の調達物流、工場内物流、販売物流までを

一貫して行います。また、将来的には、東南アジア地区の日系企業、当社顧客の現地法人・工場からアジア、日本、アメリカ、欧州等への国際間輸送等をはじめ、シンガポールを中心とした国際物流事業の展開を計画しています。

『昼間前照灯点灯運動』(DRL)である  
SD運動を展開

『昼間前照灯点灯運動』(DRL:デイトタイム・ランニング・ライト)とは、明るいうちからヘッドライト(前照灯)を点灯させ、自車の存在をいち早く認識してもらう活動のこと。事故発生の抑制につながる活動として、欧米では国家行事の一つとして展開されています。とくにカナダ、アメリカ、北欧では自車の存在を周囲に早く知らせることが、相手に対する思いやりであり優しさであるという理念があり、国で規定されていることもあって、大きな成果をあげています。国内では二輪車の「昼間点灯」については奨励されており、かなり定着してきていますが、乗用車やトラック等では、最近注目されつつある段階です。

当社でも、物流企業としての社会的役割を認識し、このDRLをSD運動(senko deyttime-light)と称しスタート。まず、7月1日から一部支店で先行させ、10月1日からセンコーグループ全車両並びにセンコーカラーの協力会社を対象とし、全社運動として推進しています。SD運動は交通事故の発生を防ぐとともに、ドライバーの周囲に対する配慮の気持ちを醸成することも大きなねらいとしています。

# DATA OF 2002

連結

## 中間連結貸借対照表

(平成14年9月30日現在)

■単位:百万円

資産の部		負債の部	
<b>流動資産</b> ……………	<b>42,187</b>	<b>流動負債</b> ……………	<b>57,496</b>
現金及び預金	14,208	支払手形及び営業未払金	12,904
受取手形及び営業未収入金	23,759	短期借入金	16,316
その他	4,287	1年以内に償還予定の社債	5,000
貸倒引当金	△67	1年以内に償還予定の転換社債	13,330
		その他	9,945
<b>固定資産</b> ……………	<b>88,653</b>	<b>固定負債</b> ……………	<b>31,887</b>
有形固定資産	68,463	社債	5,000
建物及び構築物	30,175	長期借入金	6,030
機械装置及び運搬具	3,078	退職給付引当金	17,755
土地	34,517	その他	3,101
その他	690		
無形固定資産	880		
投資その他の資産	19,309	<b>負債合計</b> ……………	<b>89,384</b>
投資有価証券	1,203		
繰延税金資産	9,960	<b>資本の部</b>	
その他	8,479	資本金	18,295
貸倒引当金	△333	資本剰余金	16,386
		利益剰余金	6,871
		その他有価証券評価差額金	△1
		自己株式	△94
		<b>資本合計</b> ……………	<b>41,457</b>
<b>資産合計</b> ……………	<b>130,841</b>	<b>負債及び資本合計</b> …………	<b>130,841</b>

## 中間連結損益計算書

(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで) ■単位:百万円

営業収益……………	82,971
営業費用	80,690
営業利益……………	2,280
営業外収益	390
営業外費用	603
経常利益……………	2,067
特別利益	18
特別損失	389
税金等調整前中間純利益……………	1,697
法人税、住民税及び事業税	1,583
法人税等調整額	△754
中間純利益……………	868

## 中間連結剰余金計算書

(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで) ■単位:百万円

<b>資本剰余金の部</b>	
資本剰余金期首残高	16,386
資本剰余金中間期末残高……………	16,386
<b>利益剰余金の部</b>	
利益剰余金期首残高	6,422
利益剰余金増加高	868
利益剰余金減少高	419
利益剰余金中間期末残高……………	6,871

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで) ■単位:百万円

営業活動によるキャッシュ・フロー	3,226
投資活動によるキャッシュ・フロー	△764
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,518
現金及び現金同等物の減少額	△1,056
現金及び現金同等物の中間期末残高	14,208



## 単体

## 中間貸借対照表

(平成14年9月30日現在)

■単位:百万円

資産の部		負債の部	
流動資産	36,502	流動負債	52,663
現金及び預金	12,595	支払手形	939
受取手形	3,732	営業未払金	8,656
営業未収入金	16,316	短期借入金	16,291
繰延税金資産	917	1年以内に償還予定の社債	5,000
その他の流動資産	2,995	1年以内に償還予定の転換社債	13,330
貸倒引当金	△55	その他の流動負債	8,446
固定資産	88,759	固定負債	31,465
有形固定資産	66,768	社債	5,000
建物	26,550	長期借入金	6,015
船舶	816	退職給付引当金	17,559
車輛運搬具	1,288	その他の固定負債	2,891
土地	33,851		
その他の有形固定資産	4,261	負債合計	84,129
無形固定資産	760		
投資等	21,230	資本の部	
投資有価証券	838	資本金	18,295
繰延税金資産	9,670	資本剰余金	16,386
その他の投資	10,892	利益剰余金	6,545
貸倒引当金	△170	(うち中間利益)	(757)
		その他有価証券評価差額金	△0
		自己株式	△94
資産合計	125,262	資本合計	41,132
		負債及び資本合計	125,262

## 中間損益計算書

(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで) ■単位:百万円

営業収益	72,589
営業費用	70,590
営業利益	1,999
営業外収益	392
営業外費用	587
経常利益	1,803
特別利益	18
特別損失	358
税引前中間利益	1,463
法人税、住民税及び事業税	1,442
法人税等調整額	△737
中間利益	757
前期繰越利益	883
中間未処分利益	1,641

# DATA OF SENKO

## [会社概要]

(平成14年9月30日現在)

### 会社の概要

商号	センコー株式会社
資本金	18,295,643,751円
創業	大正5年9月
設立	昭和21年7月
事業所	214ヶ所
従業員	3,760名
貨物自動車	1,873輛
所有船舶	7隻
倉庫	727,541㎡

### 主要な事業所

#### ■本社

大阪市北区大淀中一丁目1番30号

#### ■ロジスティクス営業本部

・関東ブロック統括営業部

東京都港区浜松町一丁目26番1号

・中部ブロック統括営業部

名古屋市西区牛島町5番2号

・関西ブロック統括営業部

大阪市北区大淀中一丁目1番30号

・九州ブロック統括営業部

福岡市東区箱崎ふ頭五丁目1番40号

#### ■部支店

札幌、仙台、茨城、北関東、埼玉、柏、東京、

神奈川、千葉、静岡東、静岡西、名古屋、

三重、北陸、京滋、京滋南、大阪、阪神、

岡山、倉敷、山口、福岡、延岡、水俣、

国際物流、海運、通運

### 役員

代表取締役会長	馬場 英次
代表取締役社長	小池 洋
代表取締役副社長	田中秋夫
常務取締役	福田泰久
常務取締役	賀木 勲
取締役	池田宜郎
取締役	和田定晋
取締役	柘植道義
取締役	伊藤忠雄
取締役	佐賀和夫
取締役	幡野哲夫
取締役	鈴木 勲
常勤監査役	林 正浩
常勤監査役	高橋三郎
常勤監査役	浅野英雄
監査役	板脇 弘

### 子会社

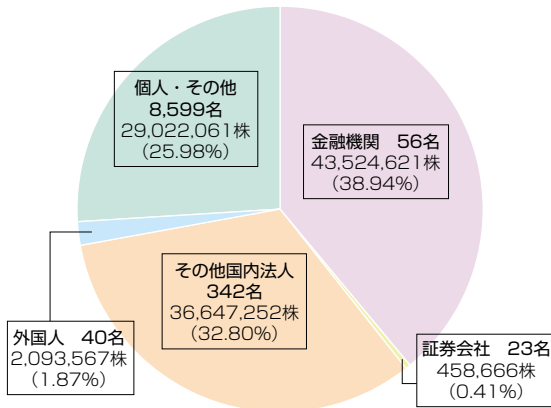
センコー商事(株)
(株)センコー保険サービス
センコー情報システム(株)
(株)センコー引越プラザ
札幌センコー運輸(株)
東北センコー運輸(株)
関東センコー運輸整備(株)
東京センコー運輸(株)
千葉センコー運輸整備(株)
富士センコー運輸(株)
東海センコー運輸(株)
滋賀センコー運輸整備(株)
大阪センコー運輸整備(株)
中四国ロジスティクス(株)
三協貨物(株)
山陽センコー運輸(株)
(株)四国冷凍運輸倉庫
福岡センコー運輸(株)
熊本センコー運輸(株)
宮崎センコー運輸整備(株)
埼玉センコーアポロ整備(株)
大東センコーアポロ(株)
北陸センコーアポロ(株)
宮崎センコーアポロ(株)
中日本資材(株)
センコーフーズ(株)
(株)クレフィール湖東
広州扇興物流有限公司
Senko International Logistics Pte. Ltd.

## [株式情報] (平成14年9月30日現在)

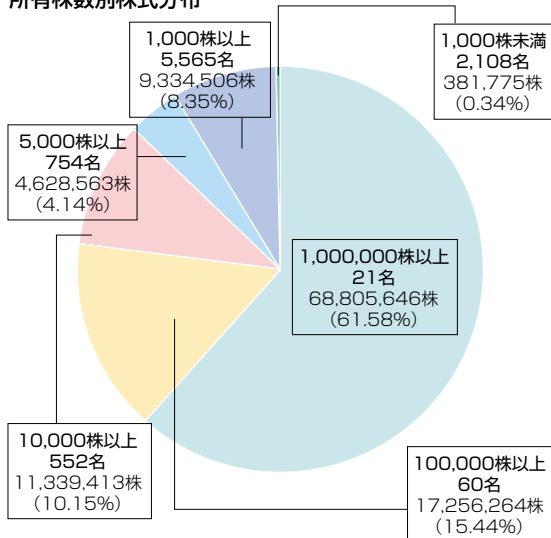
### 株式の状況

発行済株式総数 111,746,167株  
株主総数 9,060名

#### 所有者別株式分布



#### 所有株数別株式分布



#### 大株主 (上位10位)

株主名	所有株式数(株)	所有比率 (%)
旭化成株式会社	10,676,726	9.55%
積水化学工業株式会社	6,785,900	6.07%
三菱信託銀行株式会社	5,360,000	4.80%
センコーグループ従業員持株会	5,316,743	4.76%
株式会社UFJ銀行	5,300,516	4.74%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	5,236,000	4.69%
東京海上火災保険株式会社	4,439,170	3.97%
エイアイジー・スター生命保険株式会社一般勘定	3,200,000	2.86%
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,169,655	2.84%
いすゞ自動車株式会社	2,811,622	2.52%

#### 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
配当金受領株主確定日	3月31日 (利益配当金) 9月30日 (中間配当金)
名義書換代理人	三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
電話照会先	三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (03) 5391-1900 (代表)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞



〒531-6115 大阪市北区大淀中一丁目1番30号 TEL. (06) 6440-5155 (代表)

URL <http://www.senko.co.jp/>